

学校法人折尾愛真学園
折尾愛真短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

折尾愛真短期大学 の概要

設置者	学校法人 折尾愛真学園
理事長名	増田 仰
学長名	増田 仰
ALO	増田 賜
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	福岡県北九州市八幡西区堀川町11番1号

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
経済科		80
	合計	80

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

折尾愛真短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成23年3月24日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成19年7月11日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は評価を行ったところであるが、途中で申請が取り下げられたので、評価を中断した。その後、平成21年6月12日付で当該短期大学から再度申請があったので、評価を再開した。その結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、キリスト教主義に基づく人格教育を基盤とし、誠実で奉仕的な良き職業的社会人を育成することを目的とする短期大学である。

建学の精神と教育理念、教育目的と教育目標はそれぞれ一体のものとして位置付け、知育に偏らず、キリスト教による人格形成と専門教育による自主独立の精神に満ちた人物の育成を目指しており、これらは学内行事（入学式、オリエンテーション、毎朝の礼拝）や授業（キリスト教学、総合ゼミナール）で取り上げ、その徹底を図っている。

教育課程は学生のニーズに沿って多様な選択ができ、コース制とフィールド選択制を併用して学生のライフデザイン、キャリアデザインに対応できるよう工夫している。履修登録は学生のコンピュータ入力と教員の助言で行い、卒業要件や資格取得要件がコンピュータチェックできるよう設定している。

教育目標の達成度と教育効果については、単位認定状況は良好であり、退学者などの割合は改善の傾向にある。課題を持つ学生に対しては、教授会で教員全員が情報を共有し、学生指導の一元化を図っている。

入試機会の多様化が図られ、選抜方法は建学の精神等とともに募集要項にも明記され、その内容はウェブサイトでも公開し、近隣高等学校へは全教職員が分担して出向くなど入学に関する支援を行っている。とりわけ、日本語学校との連携は積極的に協定締結に努力している。

履修指導は受講についての資料とシラバスを配布して入念にしており、必修科目や卒業単位、資格取得のエラーチェック機能をプログラム化している。多くの留学生を抱えているため日本語教育を必修とし、習熟度別授業（入学時のプレースメントテストによる）を実施するなど学習支援の努力が認められる。また、サークル活動には物心両面で支援し、クラスアドバイザー制により学生個人への生活支援をしている。

社会的活動については、全教員が何らかの社会的活動に参加している。地域社会との交流については建学の精神に基づいて社会奉仕団体である国際ソロプチミスト北九州西の会

員との交流を図り、学生ボランティア活動は学友会が中心となって行われ、留学生やハンドベル部も地域のイベントで活躍している。また、他者企画ではあるが、各種講座を担当し地域の学習活動に貢献している。留学生を多数受け入れ海外の大学との姉妹校締結、教員の招聘など国際交流への努力もみられる。

理事長・学長は理事会と教授会を連携させ、円滑に運営している。事務組織は事務部長の下に運営している。人事管理は就業規則に基づき適切に行われている。教職員間の連携は良く、また教職員と学生との関係も良好である。

平成5年から自己点検・評価委員会を組織し点検・評価を行うとともに報告書を作成し公表しており、平成20年度第三者評価を機に第三者評価実行委員会を組織し、教育課程の改善を図っている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 毎朝学生、全教職員参加の礼拝をもち、学内外の講師による講話によって建学の精神を説き、キリスト教学や総合ゼミナールの授業に取り入れて共通理解に努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 専門教育科目は、コース制とフィールド選択制により学生のライフデザイン、キャリアデザインに沿って選択できるようにしている。
- 共通基礎科目に総合ゼミナールを設けて必修とし、人間教育を行っている。
- 入学時プレースメントテストを導入して習熟度別クラス編成をするなど、学生の実態に応じた授業形態をとっている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動

などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 講義要覧(シラバス)は、授業科目によって記述にばらつきが見られる。学則で定められた授業科目ごとに一つのシラバスを徹底するとともに、記述内容の充実を図り、学生に十分な情報が伝わるように改善されたい。
- 学則で定められた授業科目と実際に開講している授業科目との間に、名称、単位数等の相違がみられたが、機関別評価結果の判定までに改善が認められた。今後、このようなことのないように努められることを期待する。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員の採用、昇任については、短期大学設置基準及び学内規程に基づき、適切に実施されたい。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員の研究環境を充実させ、活発に研究が行われるように努力されたい。

評価領域Ⅸ 財務

- 当該短期大学の帰属収支は支出超過が続いており、毎年減少しているものの学校法人全体の負債も多い。財務状況の改善のための計画の実行に努め、財務の改善を図るよう努力されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神と教育理念、教育目的と教育目標はそれぞれ一体のものとして位置付けられている。知育に偏らず、キリスト教による人格形成と専門教育による自主独立の精神に満ちた人物の育成を目指している。これらは、学内行事（入学式、オリエンテーション、毎朝礼拝）や授業（キリスト教学、総合ゼミナール）でも取りあげられ、その徹底を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程は学生のニーズに沿って多様な選択ができ、コース制とフィールド選択制を併用して学生のライフデザイン、キャリアデザインに対応できるよう工夫されている。履修登録は学生のコンピュータ入力と教員の助言で行われ、卒業要件や資格取得要件がコンピュータチェックできるよう設定されている。

講義要覧(シラバス)は、授業科目によって記述にばらつきが見られる。学則で定められた授業科目ごとに一つのシラバスを徹底するとともに、記述内容の充実を図り、学生に十分な情報が伝わるように改善されたい。

また、学則で定められた授業科目と実際に開講している授業科目との間に、名称、単位数等の相違があったが、その後、機関別評価結果の判定までに改善が認められた。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

少ない教員組織で効率的な教育を展開している。教員の採用、昇任については、短期大

学設置基準及び学内規程に基づき、適切に実施されたい。

開発地域でもあるにかかわらず、緑地帯の保存に努め、施設配置も地形に合わせてよく工夫されている。全学的に少人数教育を行い、習熟度別授業を実施している。

情報処理センター（パソコン室 2）を整備し授業のほか学生が随時利用できるようにしている。教育の実施体制はおおむね整えられているが、図書館においては経済科としての専門書、留学生の母国語参考書が他のものに比べて少ないので、これらの充実を図ることが望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定、取得状況、授業評価のいずれも良好である。退学者などの割合は改善傾向にあり、課題を持つ学生に対しては教授会で教員全員が情報を共有し、学生指導の一元化を図っている。専門就職はほぼ満足できるものであり、就職先の総合評価は良好で、教育目標達成への効果が認められる。今後は、当該短期大学卒業生として社会で活躍する人材育成を図るとともに、地域、卒業生、就職先、編入先の四年制大学等と接触連携を密にして教育実績や効果を点検することが望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

入試機会の多様化を図り、その選抜方法は建学の精神等とともに募集要項にも明記し、短期大学の内容はウェブサイトでも公開し、近隣高等学校へは全教職員が分担して出向くなど入学に関する支援をしている。とりわけ、日本語学校との連携は積極的で協定締結に努力している。

履修指導は受講についての資料とシラバスを配布して入念にされており、履修登録は学生のコンピュータ入力で行い、必修科目や卒業単位、資格取得のエラーチェック機能がプログラム化されている。多くの留学生のために日本語教育を必修とし習熟度別授業（入学時のプレースメントテストによる）を実施するなど学習支援の努力が認められるが、さらに一層の支援の取り組みが望まれる。また、サークル活動には物心両面で支援し、クラスアドバイザー制により学生個人々々への生活支援もされている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の6割について、過去3ヶ年の研究業績がない。教員の研究環境を充実し、活発に研究活動ができるように努力されたい。

また、教育理念・教育目標である国際理解教育や海外の大学との姉妹校制度を活力あるものにするため、教職員の国際活動への取り組みが望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会活動は、学内に公開講座委員会を設け、全教員が何らかの形で参加している。

地域社会との交流は、建学の精神に基づいて社会奉仕団体である国際ソロプチミスト北九州西の会員との交流を図り、また、学生ボランティア活動は、学友会が中心となっており、留学生やハンドベル部も地域イベントで活躍している。また、他者企画ではあるが各種講座を担当し地域の学習活動に貢献している。

留学生を多数受け入れ、海外の大学との姉妹校締結、講師の招聘（しょうへい）など国際交流への努力もみられる。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長・学長は理事会と教授会とを連携させ、円滑に運営している。

事務組織はコンパクトにまとまっており、事務部長の下に適正に運営している。人事管理は就業規則に基づき適切に行っており、時間外管理、健康管理にも注力している。教職員間の連携は良く、教職員と学生との関係も良好である。

なお、寄附行為や学則等の諸規程についての点検・評価を行い、実態に合った諸規程に基づいた管理体制を構築が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

当該短期大学の消費収支は支出超過が続いている。定員は充足しているが、平成 22 年度の入学生のうち留学生が 8 割と多いので、そのための奨学費支出が非常に多くなっている。毎年減少しているものの学校法人全体の負債も多く、流動負債が現金預金を含む流動資産を大きく上回っており、財務状況の改善のための計画の実行に努め、財務の改善を図ることが望まれる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

平成 5 年から自己点検・評価委員会を組織し点検・評価を行うとともに報告書を作成し学内全教職員と求めに応じて学外にも公表した。自己点検・評価の結果を十分活用することはできなかったが、平成 20 年度第三者評価を機に第三者評価実行委員会を組織し評価文化の理解を深めることにより教育課程の改善を図っている。

今後、多様な立場からの評価やスケジュールを含むシステムを構築するとともに結果の有効活用による改革・改善への取り組みが望まれる。